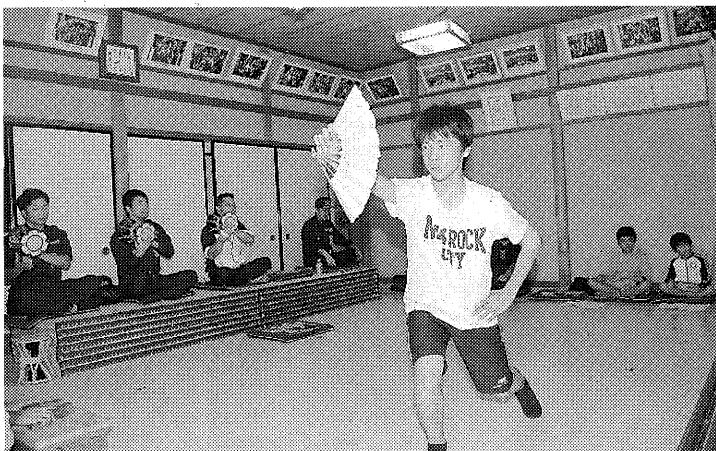


# 一之宮神社(伊豆柏久保)の市無形文化財 3日例大祭、練習に熱

同神社の三番叟は、千歳(せんざい)の若々しの祈りを込めた重量感のある舞、黒丈(くろじよ)による躍動感あふれい露払いの踊り、翁(おきな)による平和と繁栄る踊りが特徴。起源は不



例大祭に向け三番叟の練習を重ねる出演者ら  
=伊豆市柏久保の一之宮神社

名譽ある三役は、地元の小中学生が2年連続で務める。今年の配役は千歳が修善寺南小3年の永沼大来君(1年目)、翁が修善寺中1年の大久保春道君(2年目)、黒丈が修善寺南小5年の山口凱矢君(1年目)。三役に笛、鼓、地謡など8人が加わり、約1時間半の

伊豆市柏久保の一之宮神社の例大祭が11月3日、地域を挙げて開催される。呼び物は、市指定無形文化財「三番叟(さんばむり)」の奉納。今年は復活30周年の節目にあたり記念式典も行われる。本番に向け連夜、練習に励んでいる。

明だが、記録が残る近隣の三番叟同様少なくとも

200年以上さかのぼる

と推測される。

しかし、1962(昭和37)年の台風で厅屋(拝殿)が倒壊し、しばらく

中断。86(昭和61)年、境内に「老人憩いの家」

が完成したことに伴い、三番叟保存会を設立して復活した。

名譽ある三役は、地元の小中学生が2年連続で務める。今年の配役は千

歳が修善寺南小3年の永沼大来君(1年目)、翁

が修善寺中1年の大久保

春道君(2年目)、黒丈

が修善寺南小5年の山口

凱矢君(1年目)。三役

に笛、鼓、地謡など8人

が加わり、約1時間半の

# 三番叟が復活30周年

三番叟を奉納する。

保存会は6年前に世代交代し、復活後に三役などを務めた30、40代の若衆が指導する。9月中旬から練習を開始し、今週

初めてから通し練習に入った。

保存会の山田成浩会長は「前の師匠(保存会の役員)たちが苦労して復活させた伝統芸能。しつかりと継承していく。」

内に模擬店が並び、子どもも神輿、シャギリ演奏のほか、餅投げ、抽選会、ラムネ早飲み、尻相撲などのアトラクションが行われる。

生懸命練習しているので、ぜひ見に来てほしい」と話している。

三番叟は2日の前夜祭(午後7時)と3日の本祭(午前10時半)で2度奉納する。3日は境

(午後7時)と3日の本祭(午前10時半)で2度奉納する。3日は境

# 伊豆日日新聞